

自然に触れる機会の減ったことへの問題と解決の提案

2014/07/09

21211351 油井貴志

・問題

人間と自然は切るに切れない関係であり、自然から得られるものは多い。

自然に触れることで感性が豊かになり、子供の成長を促すという研究もある。

身近に自然と接することのできる趣味では園芸があるが、若年層では園芸をやる人がへっているのではないか。

現代人は自然に触れる機会自体が少ないのではないか。

・その原因・背景

地域の都市化により周辺地域から自然が減っている。

昔よりも趣味が多様化し、家庭で遊ぶ場合の選択肢が増えたり、ゲーム機などが普及したことに加え、公園の遊具が撤去されたことが続いたことも加わったことによって外で遊ぶことが減り、自然に触れる機会が減ったのではないか。

・解決方法

現代人は自然と接する機会が減っている。そうしたことから、身近に自然と触れることのできる機会を増やすべきだ。

自然に触れるには大きく分けて二つの方法があるのではないかと思う。

1つ目は山など自然のある場所へ行くということ。一番確実な方法ではあるがやはり場所によってはかなり遠くへ行かなければいけないこともあるなど苦勞を伴ってしまう。

2つ目は自らの手で動植物を育てることがある。これならば他所へ移動する必要もなく、手軽に家でも楽しむことができるが、上記のとおり、自分で園芸を行うにも育てるのが面倒、などの問題が生じてしまう。

リサーチバンク・園芸に関する調査。家庭菜園の人気は「実のなる野菜」。によるアンケート結果によると、「育てている」と答えた人の中でも10代が15%の人が育てていると答えている中、60代では68%の人が育てていると答えており、年齢により大きな開きがあることがわかった。このデータから分かる通り、実際に若年層の園芸普及率は低いということが分かる。

この調査によると園芸をやらない・もしくは、やっていないと答えた人の意見として目に付いたのは、世話が面倒、難しそうだと思っている人が多くいるように感じた。女性には草に付く虫が苦手と感じる人も多い。実際、園芸をやると日々の水やりや季節によっては日当たりのよい場所へ移動したり、土に肥料を混ぜたりとやることは多く、特に時間の

ない社会人なら負担になってしまう。

・解決の模索(定義)

自然を増やす、といったことが最初に思いつくがそれは大きな団体の力があってこそできることであるため、安易に行うことはできない。まずは個人、少人数で出来ることを少しずつだがやっていくべき。

若年層に園芸を普及させるにはただでさえ減っている自然の緑と触れる機会を作るべきなのではないか。

・解決方法の模索

まず聞いたりするよりも自ら実践してどのようなものか試してみることから始めるべきだ。実践して見なければどのようなものか想像だけの存在となってしまう、その魅力や大切さに気付けないこともおこってしまう。まずはやってみることから始めるべき。

そのためにも地域の学校を利用しての体験教室を開くことで地域の人とのつながりを作りつつ、学生が園芸に触れることのできる機会となるのではないだろうか。自然の土や緑に触れることで心の体の健康を保つことができるということがわかっている。忙しい現代の若年層にこそ園芸をやる必要性を伝えるべきではないだろうか。

参考資料

リサーチバンク 園芸に関する調査。家庭菜園の人気は「実のなる野菜」。

http://research.lifemedia.jp/2013/05/130522_gardening.html

http://www.health.ne.jp/library_sp/5000/w5000343.html